

南相馬市での学校との連携の試み — 東日本大震災と原発事故の後で —

南相馬市立総合病院小児科

安藤 幸典

南相馬市立総合病院小児科
平田小児科医院

高野 恵
平野 慶肇

南相馬市は福島県浜通りの北部に位置し、東京電力福島第1原子力発電所から約10～40kmの範囲に位置する地方都市である。平成23年3月11日の東日本大震災・津波とそれに引き続く原発事故は今もこの地域に大きな影響を残している。

市内は避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域などの警戒区域と制限のない区域とに分けられ、市内居住者は4万6千人と震災前の約65%に減少した。幼稚園・保育園児、小学生、中学生数も、それぞれ震災前の41%、57%、67%に減少し、その母親世代の20代から40代では女性の市内居住率は、現在も男性に比べて低いままである。

ここでは子どもたちを取り巻く環境の変化が多方面で起こり（表1、2、3、4）、それは彼らに様々

な影響を及ぼした。幼児の発達に与えた影響は、本年の日本小児心身医学会総会シンポジウムで発表した。

今回、演者が赴任した平成25年1月から8月までの間に、当院で関わり健康問題に関して学校に対して専門的立場から助言を行った小・中学生18名についてこの地域での学校との連携について（原発事故の影響も含めて）検討した。

症 例：小学生14名、中学生2名、養護学校生2名。

（男児15名、女児3名）

（通常学級14名、支援学級2名、支援学校2名）

表1 子どもを取り巻く環境変化（家庭）

家族構成の変化
家族が震災で死亡
母子だけが市外・県外へ避難
避難に関して家族内の意見の違い

表2 子どもを取り巻く環境変化（住居）

今まで住んでいた家に住めない
知らない土地での避難生活（長期、繰り返し）
仮設住宅・借り上げ住宅での生活
家の中で大声を出せない
家の周囲に安全で広い遊び場がない

表3 子どもを取り巻く環境変化（生活）

戸外での遊びの制限
食べ物・飲み水の問題
メディアの時間が増加
生活リズムの乱れ
食生活の乱れ

表4 子どもを取り巻く環境変化（保護者）

失職・転職・単身赴任
体調不良・疲労感・イライラ
放射線への不安
今後の生活への不安
対人関係の緊張（放射線に対する考え方の違い）

避	難：避難生活を経験したものは14名。 (期間は1か月から2年)	
診	断：自閉症スペクトラム	17
	適応障害	7
	知的障害	4
	学習障害・空間認知障害	4
	ADHD	3
	筋ジストロフィー症、てんかん	
	愛着形成障害、睡眠障害、チック各1	
面	談：担任	18
	特別支援コーディネーター	9
	ことばの教室教員	6
	管理職（校長・教頭）	5
	養護教諭	4
	その他（支援員、 スクールカウンセラーなど）	9
対	応：ケース会議	18回
	学校訪問	15回
	書面による連絡	19通
	電話相談および経過報告	23回
	薬物の処方	7例

- まとめ：1) 現代の学校の健康問題は、多種多様で複雑化しつつある。
- 2) 教育と医療、双方に関わる問題を抱える児童・生徒が多い。
- 3) 自閉症スペクトラム児には突然の避難による環境変化の影響が大きかったが、2年を経過した現在はほぼ安定していた。
- 4) 通常学級に在籍する自閉症スペクトラムが多く、担任教諭を支援する学内体制が必要である。
- 5) 学校との連携のためには、努力と工夫と時間が必要である。